

# 畑地かんがい営農モデル事業

(公財) 那珂川沿岸土地改良基金協会

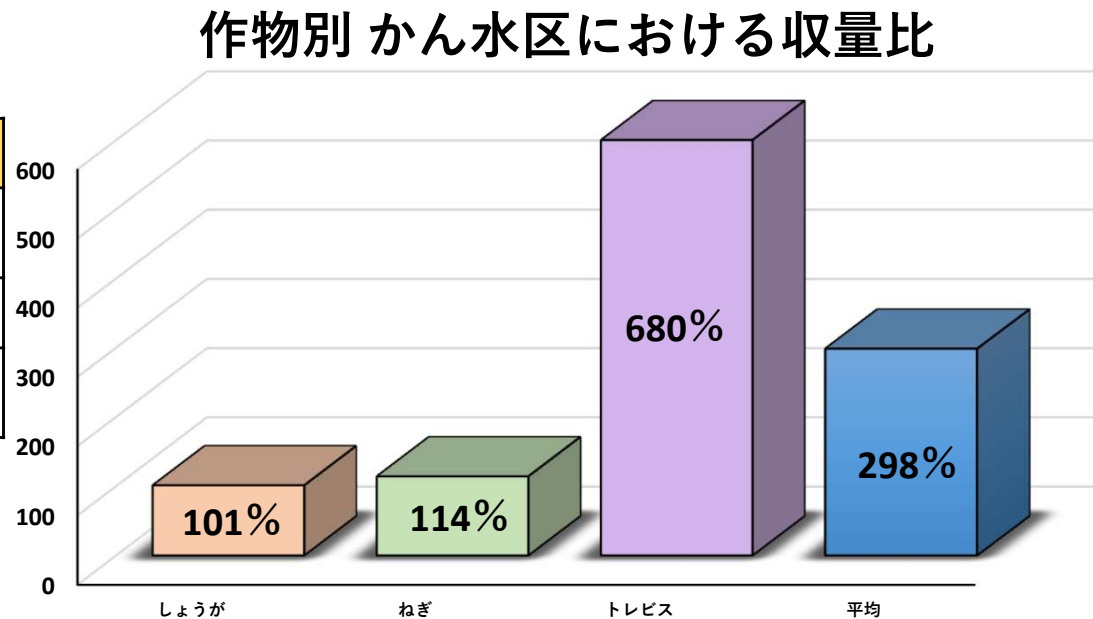
**調査目的：** 那珂川沿岸地域における畑地かんがい効果のPRを目的として、その基礎資料に資するため畑かん実証調査を実施している。

**調査概要：** かん水と無かん水（天水のみ）区を設置し、かん水効果の実証調査かん水による生育、収量のデータの収集及び分析により、かん水効果の結果をとりまとめた。

かん水区収量比の算出：  $\text{かん水区収穫量} / \text{無かん水区収穫量 (10aあたり)}$

## 令和 7 年度実績

| 品 目    | 品 種     | 作 付 け 期 間  | ほ 場 位 置     |
|--------|---------|------------|-------------|
| 1 しょうが | オオミショウガ | 4月下旬～11月上旬 | 水戸市飯富町      |
| 2 ねぎ   | 夏扇4号    | 4月下旬～1月    | 水戸市岩根町      |
| 3 トレビス | トキタ種苗   | 9月上旬～12月中旬 | 常陸大宮市<br>三美 |



# しょうが

調査期間：令和7年4月～令和7年11月

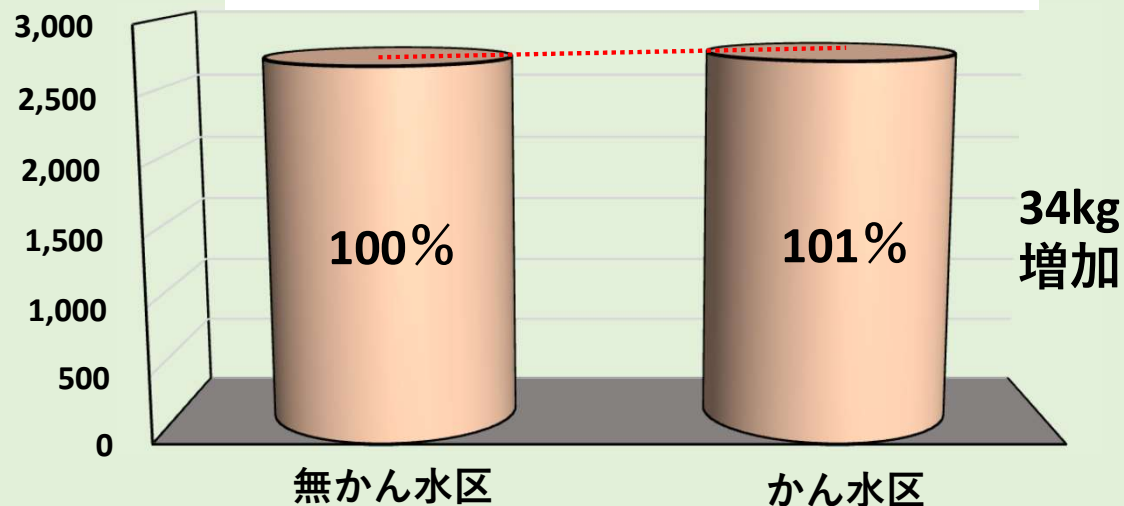
## 調査条件

調査地区：水戸市飯富町  
品種：オオミショウガ  
は種：7月9日  
収穫：10月29日～11月14日  
かん水方法：降水量2mm相当(2L/m<sup>2</sup>)

## 調査結果

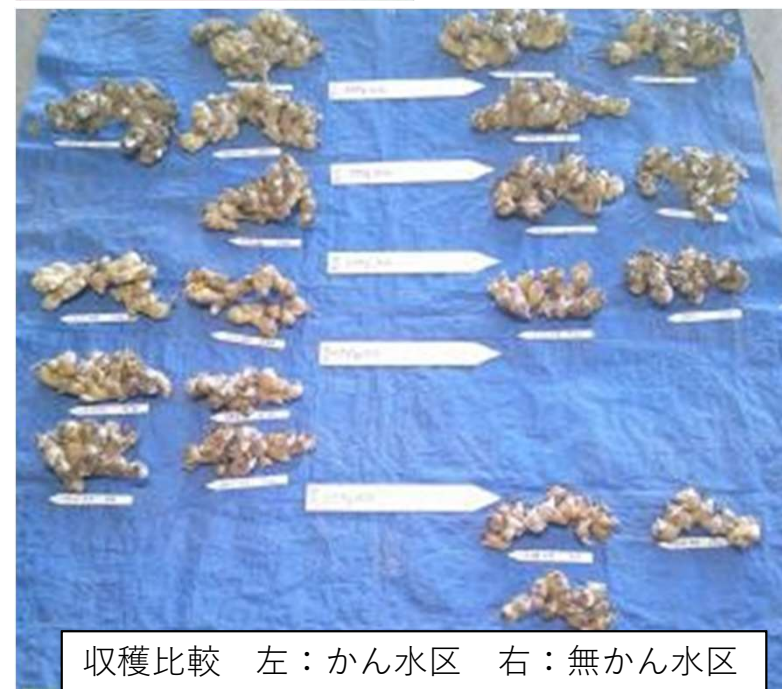
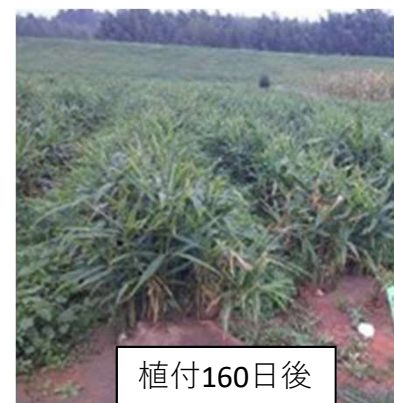
### 10a当たりの収量

2,713(kg/10a) → 2,747(kg/10a)



・ 収量について、かん水区2,747kg/10a、無かん水区2,713kg/10aとなりかん水区の収量は101%となった。  
平均の塊片数は少ないものの、平均塊片重はかん水区が上回り収量増という結果となった。

・ 株重、根茎重、根重とも、かん水区が無かん水区を下回る収量となったが、根茎重は、かん水することにより、1.2%増加した。





# ねぎ

調査期間：令和7年4月～令和8年1月

## 調査条件

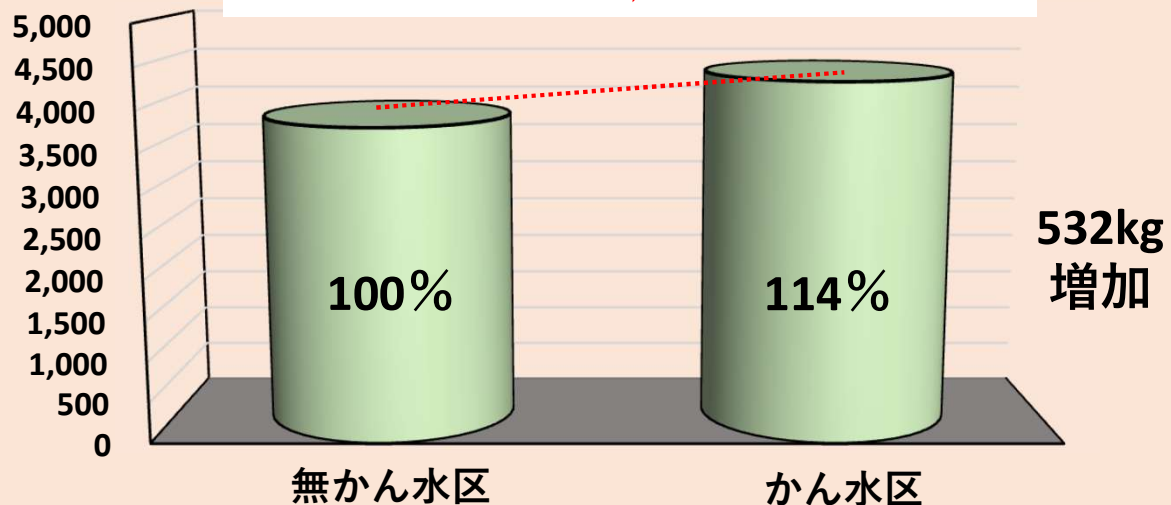
調査地区：水戸市岩根町  
品種：夏扇4号  
は種：1月18日  
収穫：11月下旬～1月  
かん水方法：降水量2mm相当(2L/m<sup>2</sup>)



## 調査結果

### 10a当たりの収量

3,804(kg/10a) → 4,336(kg/10a)



・収量について、かん水区4,336kg/10a、無かん水区3,804kg/10aとなり、かん水区の収量は114%となった。

・調製重は、かん水の有無による顕著な差はみられなかったが、かん水区の収穫本数が無かん水区より多くなり、かん水区の収量は、無かん水区を上回った。





# トレビス

調査期間：令和7年8月～令和7年12月

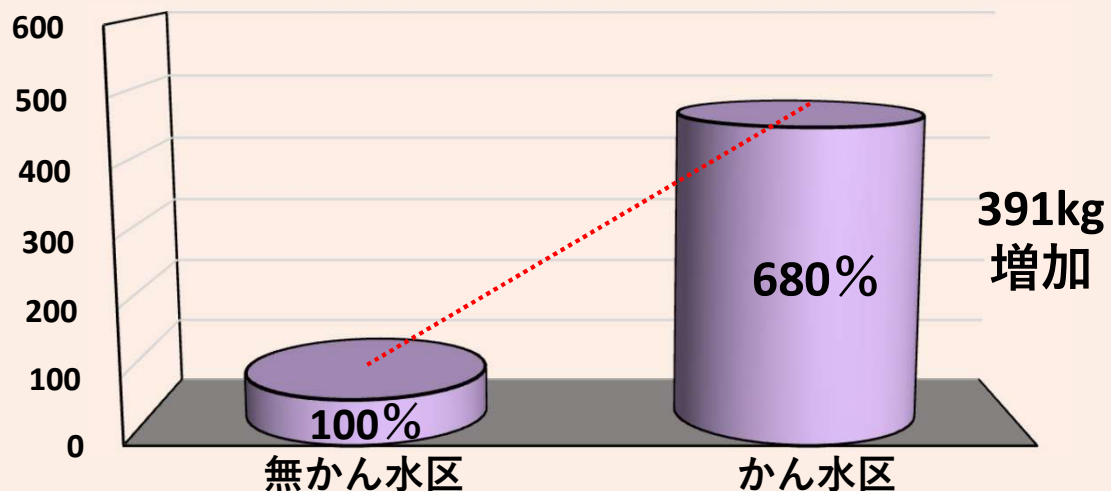
## 調査条件

調査地区：常陸大宮市三美  
品種：トキタ種苗(TSGI-1704)  
は種：8月7日  
収穫：12月15日  
かん水方法：スプリンクラーにより、1時間  
あたり2.7L/m<sup>2</sup> (2,700L/10a相当)

## 調査結果

### 10a当たりの収量

67.7(kg/10a)  458.7(kg/10a)



左：かん水

右：無かん水



収穫比較 左：かん水区 右：無かん水区

- ・収量については、かん水区で458.7kg/10a、無かん水区で67.7kgとなり、かん水区と無かん水区の収量比は680%となった。
- ・定植1か月後の活着率は、かん水区で77.0%、無かん水区で10.0%と大きな差が発生した。その原因は、定植後のかん水(根回し水)の役割が順調に果たされ、活着が進んだため収量が無かん水区で大幅に減少したことにより、かん水区が多くなった。